

## 愛によるとりなしの祈り

前回は、主イエス様の「十字架のとりなしの御業」によって、父なる神様に私たちが義人として紹介して頂けること。また私たちも、他の人のために「とりなしの祈り」をして、その人を主に紹介するなら、聞いて頂ける事を学びました。

しかし、問題に直面している本人がお祈りするのが、最も効果的で、本人ではない人が祈ることの効果はあるのか？また、どのような心で祈ることが良いのか？ということ、私たちはもっと、知らなければなりません。

主イエス様は「互いに愛し合いなさい」と命令されました。「とりなしの祈り」はその使命を果たすカギです。私たちはどのような心で支え合うのがよいのか「とりなしの祈りの心」を学んでみましょう。

## 聖書の学び

### I、とりなしの祈りの心

私たちは重荷や困難に苦しむ人のために「とりなしの祈り」をします。その時にどうすれば良いか教えるみことばを見ましょう。

#### ①ガラテヤ6:2：「重荷を負い合いなさい」

「負い合う」の意味 = 何かを支える、重荷を負う、持ちこたえる  
アネコマイ(anechomai)



例えば、トマトの茎を棒にくくりつけ、実の重さを支えるようにします。

この茎の力は支え棒の力です。トマトの茎と支え棒は一体です。

#### ②コロサイ3:13、エペソ4:2：「互いに忍耐し合う」「お互いに耐え忍びなさい」

「忍耐し合う」「耐え忍ぶ」の意味 = ・我慢し、耐え忍び合いなさい

・互いに、支え棒になりなさい

### II、支え棒になった者たち

(マルコ2:1~11)

主イエス様の処に、病気の友人を運んでいった四人は、どのような心だったのでしょうか。

①イエス様がおられると聞いて、中風の友人を連れてきた。(マルコ2:1)

- ・体の動かない友人を説得した。運ぶための用意をした。
- ・一緒に彼を運ぶために四人メンバーを揃え、出発した。(マルコ2:3)

②人が多くて入れない状況でどうしましたか？(マルコ2:2)

- ・あきらめない → → → 何か良い方法はないか考えた(マルコ2:4)
- ・屋根に友人を運び、屋根をはがすことを考え、実行した。
- ・中風の友人の寝床をロープで吊り下ろすため、ロープを調達する。
- ・バランスをくずさないよう、慎重に…力を出し、心を合わせました。

③イエス様は「彼らの信仰を見て・・・」罪を赦し、癒された(マルコ2:5)

### Ⅲ、主の愛による一致

1、とりなす者、とりなされる者は一つになって、主の栄光を現すことができるのです。(エペソ4:3)

①まず、父なる神様の前に、イエス様は私たちの代理となって十字架にかかって下さいました。(Ⅱコリント5:21)

②イエス様は私たちの身代わりとなり、支え棒になり、主と私たちは一体です。  
(ローマ6:8~11)

③中風の人だけでは、イエス様に近づけませんでした。友人四人は彼の支え棒になり、五人は一体でした。(ローマ15:1~7)

2、「とりなしの祈り」は、主の働きを拡大することができます

(コロサイ1:24)

「キリストの苦しみの欠けたところ」とは何でしょうか。

- ・生ける水であるイエス様のいのちの水を、祈りを通して、配ることです。